

第3回経営改善委員会 議事概要

1. 日時 令和2年11月19日(木) 14時00分～16時55分

2. 場所 WEB会議形式で開催
(道内の委員はJR北海道本社会議室から参加)

3. 出席者

- (1) 委員 片野坂真哉委員長、知野雅彦委員、瀬川隆盛委員、石井吉春委員、檜森聖一委員、上浦正樹委員
- (2) オブザーバー 国土交通省 木村大鉄道局鉄道事業課長
鉄道・運輸機構 小瀬達之理事長代理
- (3) JR北海道 田浦芳孝会長、島田修社長、綿貫泰之副社長、田畑正信常務、宮越宏幸常務、渡利千春常務、萩原邦彦取締役、島村昭志取締役

4. 議事概要

(1) JR北海道グループ経営改善等に関する取り組みについて

11月6日に公表した「2020年度第2四半期決算」「JR北海道グループ経営改善に関する取り組み」について議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 安全と社員のモチベーション確保に留意しつつ、コスト削減に取り組んでほしい。
- コロナの状況で厳しい決算状況はやむを得ない。
- 経費削減ばかりだと、安全問題・社員流出に繋がりがかねない。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 設備投資の見直しについては、安全投資は削減せず、必要な修繕は必ず実行する方針としている。
- ◆ コロナの影響に対処しつつも、北海道新幹線の札幌開業を機に経営自立を図ることを目標とする長期経営ビジョンの方針は変わらない。

会社からの説明を踏まえ、以下の講評があった。

- コロナ禍の取り組みとして、収入関連項目は回復に向けての努力が見られるとともに、コスト削減項目は当初計画以上の成果が挙げられていることを評価したい。

(2) 当面の取り組みについて

コロナ禍に対する当社の当面の取り組み状況について説明し、議論した。

委員より以下のご意見があった。

- 当面の止血策だけではなく、地域や社員が将来展望を持つことのできる構造改革プランが必要である。
- 従来型の戦略だけではなく、ニューノーマルを見据えた戦略が必要である。
- コロナ禍の今こそ、将来を見据えた戦略を考えるべきである。

委員からのご意見に対して、会社から次の説明を行った。

- ◆ 本日は生き残り策として結果がすぐに出る当面の取り組み状況について説明した。将来に向けた取り組みについても、after コロナを見据え順次示していきたいと考えている。
- ◆ 構造改革の具体的な取り組みについては、次回の委員会で説明させていただきたい。

本日の委員会のまとめとして、以下の講評があった。

- 国の支援については、ニューノーマルの中でJR北海道の経営自立にとって欠かせぬ問題であり、必要な支援が継続されることを希望する。
- コロナ対策については、安全の確保や社員のモチベーション維持に十分配慮したうえで、より一層の自助努力、経営努力が必要である。

以 上